

## 市場トレンド

私はこう読む

河口 真理子

◆  
◆  
◆  
親しい人に何かプレゼントをする際に悩む人は多いはずだ。身につけるものや雑貨は、趣味が合わなければ邪魔になるし、食べるものは後に形が残らない。そこで今回は、形は残り邪魔にならない「夢」の贈り物「Present Tree (プレゼントツリー)」を紹介したい。これは文字通り、木の贈り物だ。

特定非営利活動法人(NPO法人)環境リレーションズ研究所(Er)

## 親しい人へ「苗木の贈り物」 植林証明書、育つ環境意識

は植林プロジェクトを個人や企業の「贈り物」という形で支援するサービスを行っている。現在、プレゼントできる木は、インドネシアのカリマンタン、北海道、山梨県の南八ヶ岳などの植林プロジェクトで植えられている木だ。

国内の植林では1本3500—1万円、カリマンタンでは2本分5500円を支払うと、それぞれ地域の植生にあった苗木が植林され、10—20年間育成管理される。贈り先には贈った木を特定した植林証明書と贈り主のメッセージがプレゼン



カリマンタンの植林の様子

トされる。国内の植林の証明書では、1本ごとに識別番号がつけられているので、贈られた木がどれかを見に行くことも可能。Erは購入者を対象に現在、北海道の植林見学ツアーを企画している。

これまで日本たばこ産業やジェーシービーなどが社会貢献イベントのノベルティとして購入しているほか、ネットを通じて毎月平均50人ほどが個人的に購入しているという。

贈られた苗木は、ほぼ確実に育ち二酸化炭素の吸収源となる。また森林は水源地であり多様な生物のすみかともなる。地球には良い環境を、贈り先には形ある夢を贈ることになる。

なお、カリマンタンの植林は寄付でなく立ち木を購入する形となる。植林する2本のうち1本は環境保全目的でそのまま育成するが、1本は商品価値の高いチークなので10年後にその売却代金が戻ってくるという実利もついている。(大和総研主任研究員)